

令和元年度第1回八雲町地域公共交通会議

日 時 令和元年7月10日（水）午後1時30分より
会 場 八雲町公民館2階 第1・2集会室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 会長挨拶

4 自己紹介

5 町の方針

6 検討事項

(1) 網形成計画検討の進め方について

(2) 八雲町の公共交通の現況について

(3) 町民アンケート調査について

(4) 路線バス利用実態調査について

7 その他

八雲町地域公共交通会議

第1回会議

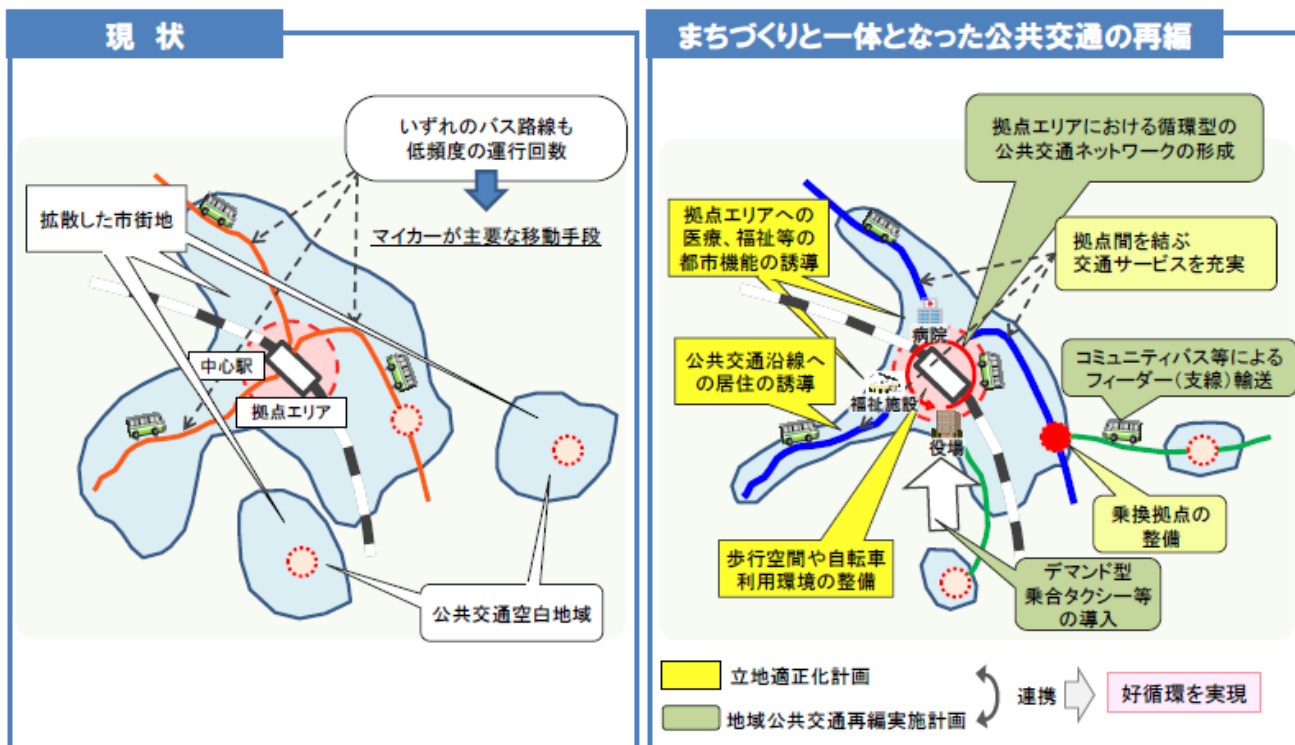
2019年（令和元年）7月10日

1. 網形成計画検討の進め方について
2. 八雲町の公共交通の現況について
3. 町民アンケート調査について
4. 路線バス利用実態調査について

1. 網形成計画検討の進め方について

① 網形成計画とは

- 地域公共交通網形成計画は、「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たす。
- 地域の実施を計画的に進めることで、限られた資源（交通事業者、交通施設、運転士、車両、財源など）が有効に活用され、持続可能な地域公共交通網の形成を図る。



1. 網形成計画検討の進め方について

② 地域の公共交通に求められる役割

- モータリゼーションの進展、人口減少、少子高齢化を背景に、
 - 公共交通の**利用者が減少**
 - 公共交通**ネットワークの縮小**、**サービス水準の低下**が進行、**空白地域が拡大**
 - 公共交通の**利用者が一層減少**（負のスパイラルに落ち込んでしまっている）
- 地域の公共交通が担っている役割・期待される役割

地域住民の移動手段

- 運転のできない学生・生徒、高齢者、障がい者、妊婦などの交通手段の確保

コンパクトシティの実現

- 諸機能が集約した拠点同士、あるいは拠点と居住エリアを結ぶ交通手段の提供

まちの賑わい創出や健康増進

- 外出機会増加による町の賑わい創出や「歩いて暮らせるまちづくり」による健康増進

人の交流の活発化

- 観光旅客等の来訪者の移動の利便性や回遊性の向上により、人の交流を活発化

1. 網形成計画検討の進め方について

③ 地域の公共交通に対する取組の方向性

役割・必要性
の再認識

地域公共交通の**維持、改善**は、**交通分野の課題解決**にとどまらず、**まちづくり、観光**、さらには、**健康、福祉、教育、環境**等の様々な分野で**大きな効果**をもたらすもの
(地域活性化に**不可欠な地域の装置・社会インフラ**)

行政の積極的
関与

民間事業者を中心とした**従来の枠組みから脱却**し、地域の総合行政を担う**地方公共団体が中心**となって、**地域戦略の一環**として取り組む必要がある

地方公共団体が、
まちづくりと連携し、
面的な公共交通網を再構築

関係者が一丸
となり推進

住みやすく、活力に満ちた**地域社会の実現**に向け、**地域公共交通の再編**を進める！

1. 網形成計画検討の進め方について

④ 地域公共交通活性化再生法による事業の基本スキーム



LRT：Light Rail Transitの略、乗り心地やバリアフリーなどに配慮した新型車両を用いた次世代型路面電車
BRT：Bus Rapid Transitの略、専用空間などを用いて高い速度で運行する路線バス

出典：国土交通省「人と町、未来をつなぐネットワーク～地域公共交通活性化再生法の一部改正～」

1. 網形成計画検討の進め方について

⑤ 八雲町が地域公共交通網形成計画を策定する意義

目 前 の 課 題

- ◆ 高齢人口増加 ⇒ 免許返納後の交通手段確保
- ◆ 町の人口減少 ⇒ 公共交通利用者の減少・収入減
- ◆ 公共交通は赤字経営・国道町が支援、担い手（運転士等）が不足
⇒ 公共交通運行維持の危機（減便・廃止）
- ◆ 医療受診環境や買い物環境の悪さは、町外に転居したい大きな理由※
- ◆ 公共交通の利便性については町民の満足度が低く重要度が高い政策分野※
⇒ 人口流出・減少の加速、町の衰退

※第2期八雲町総合計画策定に向けた町民アンケート調査結果（H28.7）

環 境 変 化

- 2030年に北海道新幹線延伸・新八雲（仮称）駅の開業
⇒ 広域公共交通網の拡充、並行在来線及び長距離路線の役割の変化
- 八雲町立地適正化計画に従いコンパクトなまちづくりへの転換を推進
⇒ 町の拠点（中心拠点・集落拠点）形成と拠点間のネットワーク化
⇒ 都市機能・居住機能の集積、公共施設の適正配置・公的不動産有効活用

コンパクトシティ実現に向けたまちづくりと連携し、
効率的で持続可能な地域公共交通網の形成を図り、
町民の生活を守るため、
「八雲町にとって望ましい公共交通網の姿」を示す

1. 網形成計画検討の進め方について

⑥ 八雲町地域公共交通網形成計画の位置付け

第2期八雲町総合計画 八雲発！自然と人を未来へつなぐ

北海道及び地域の地域づくり上位計画

- 北海道総合計画
- 北海道人口ビジョン・北海道創生総合戦略
- 道南連携地域政策展開方針

八雲町の都市分野の計画

- 八雲都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
- 八雲町都市計画マスタープラン
- 八雲町立地適正化計画⇒特に連携

八雲町の都市機能関連計画

- 「交流人口の拡大による新しいまちづくり」アクションプラン
- 八雲町地球温暖化対策実行計画
- 第5期八雲町障害者福祉計画
- 第1期八雲町障害児福祉計画
- 八雲町子ども・子育て支援事業計画

北海道及び地域の既存交通関連計画

- 北海道交通政策総合指針
- 本道の公共交通ネットワークのあり方について
- 将来を見据えた北海道の鉄道網のあり方について
- 北海道新幹線並行在来線対策協議会（渡島ブロック会議）の調査・研究および方向性検討結果
- せたな町地域公共交通網形成計画 など

八雲町の既存交通関連計画

- 北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備構想
- 北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画

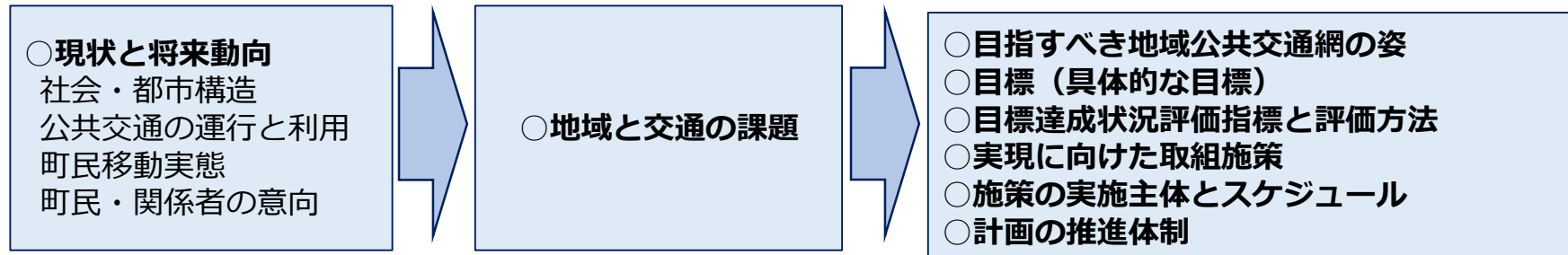
八雲町地域公共交通網形成計画

基本的な方針、計画の区域、計画の目標、目標達成のために行う事業・実施主体
計画の達成状況の評価に関する事項、計画期間、その他の事項

1. 網形成計画検討の進め方について

⑦ 八雲町地域公共交通網形成計画のイメージ

○八雲町地域公共交通網形成計画の内容



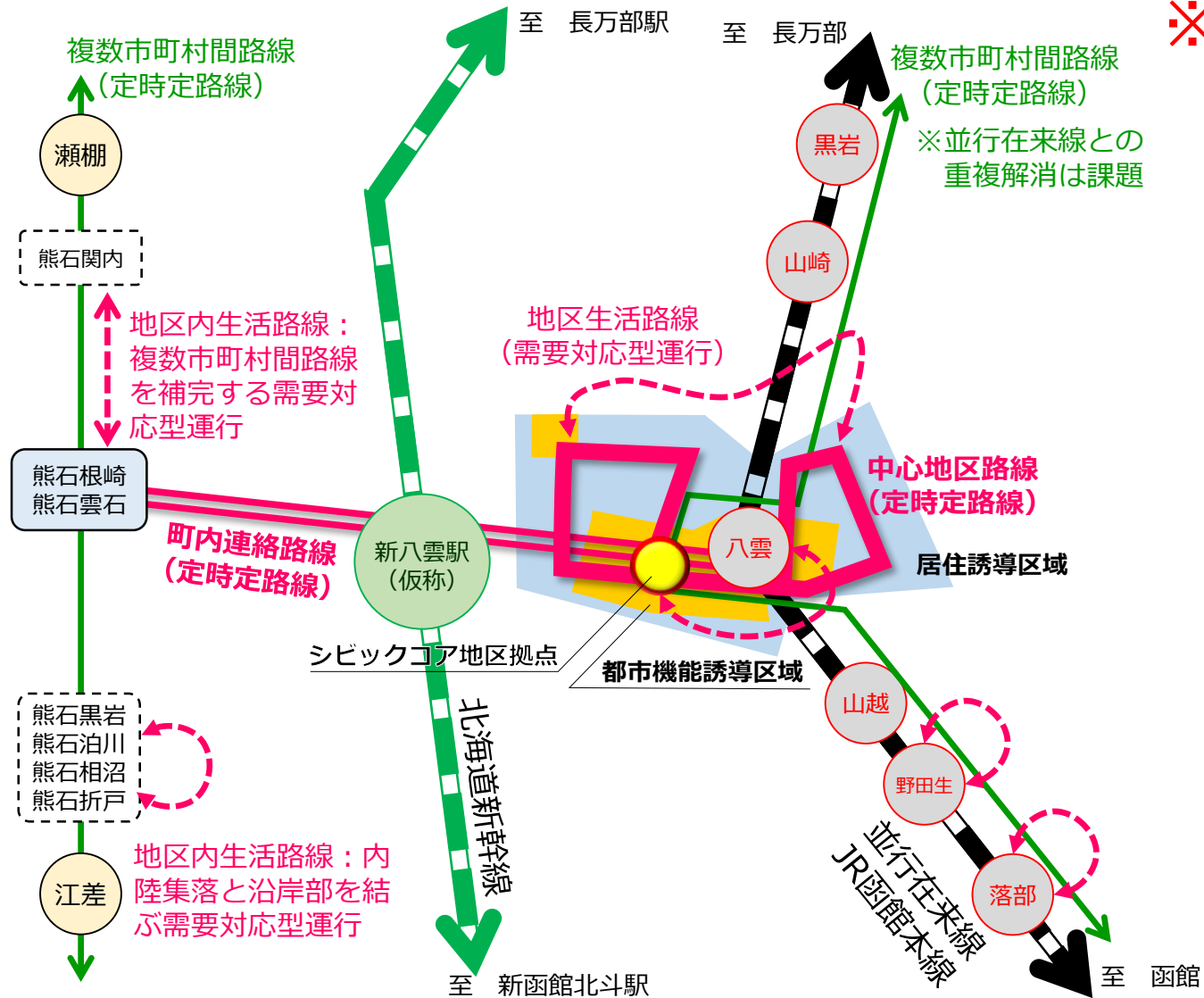
○八雲町で考えられる取組施策イメージ

施策の柱	取組事業
公共交通網再編	①路線の分割、統廃合による既存路線の再編 ②スクールバス、送迎バスと路線バスの統合 ③新たな住民生活支援交通手段の導入 ④交通手段相互をつなぐ乗り継ぎ交通拠点の整備
利便性を高めるサービスの改善	①使いやすいダイヤの設定 ②運賃設定の見直し ③交通系ICカードと連携したサービス、情報の提供 ④バス位置把握や利用予約が可能な総合情報システムの提供 ⑤バリアフリー化推進 ⑥観光客等の国内外からの利用者への情報提供 ⑦バス停の整備
利用促進への協働の取組	①公共交通利用体験会やツアー実施 ②モビリティ・マネジメント※施策の取組 ③行政の率先した取組の実施 ④利用データや情報のオープンデータ化
運行や事業への支援	①住民や地区が運営する共助運行の仕組みの導入、支援 ②交通事業者への支援

※モビリティ・マネジメント：多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ（移動状況）が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取組

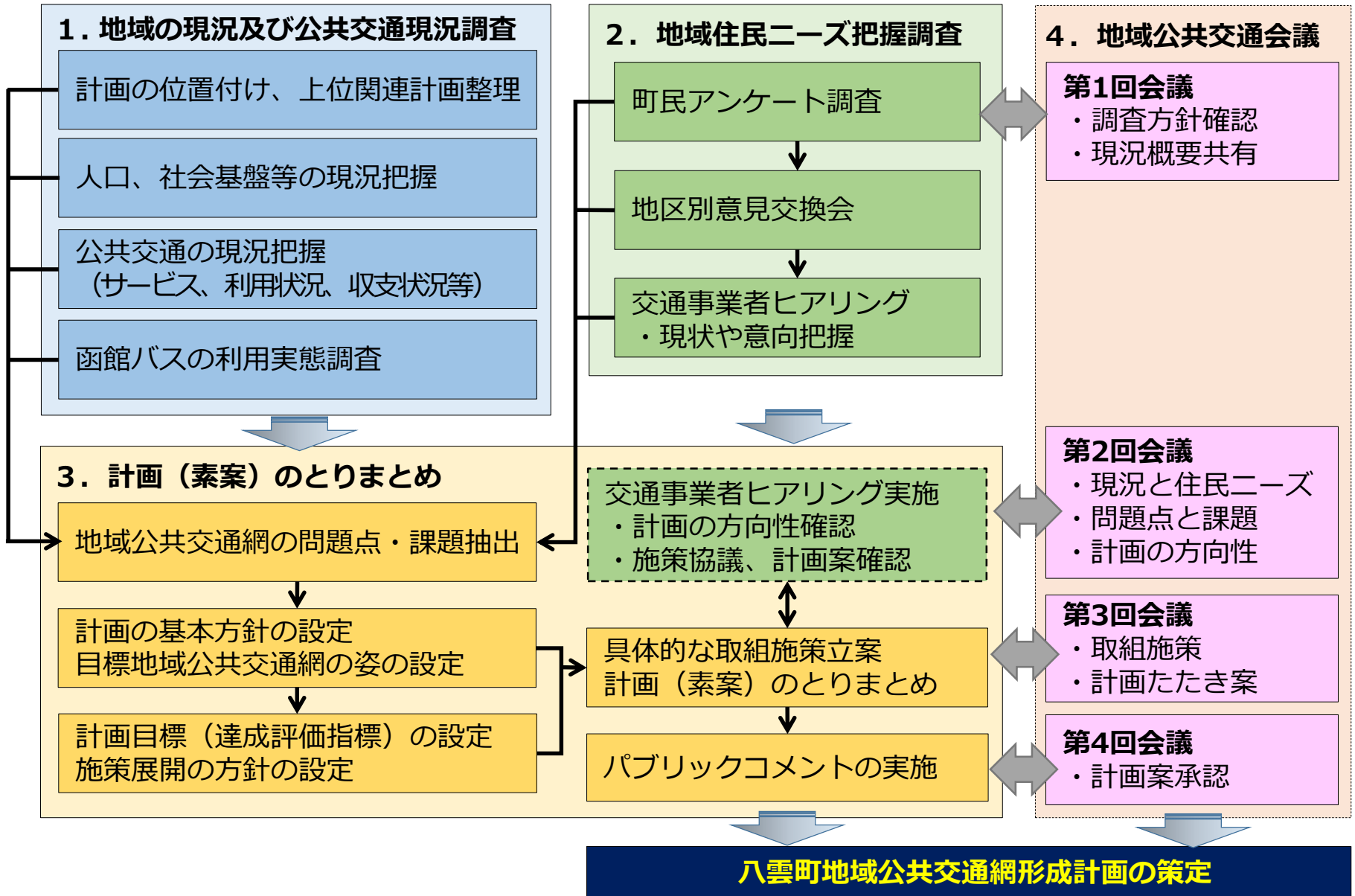
都市構造との連携を踏まえた地域公共交通網イメージ

※会議限り

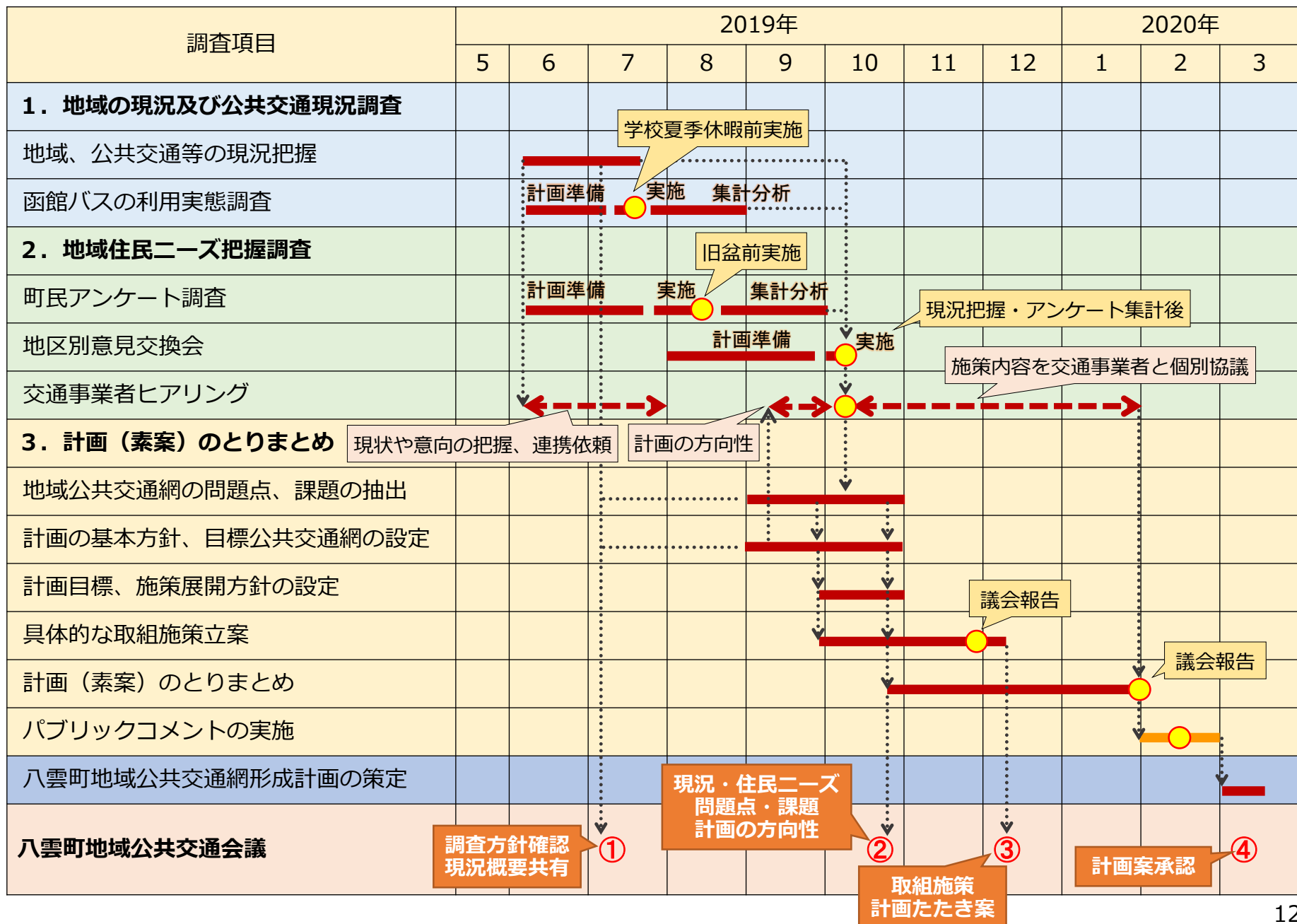


1. 網形成計画検討の進め方について

⑧ 検討の流れ



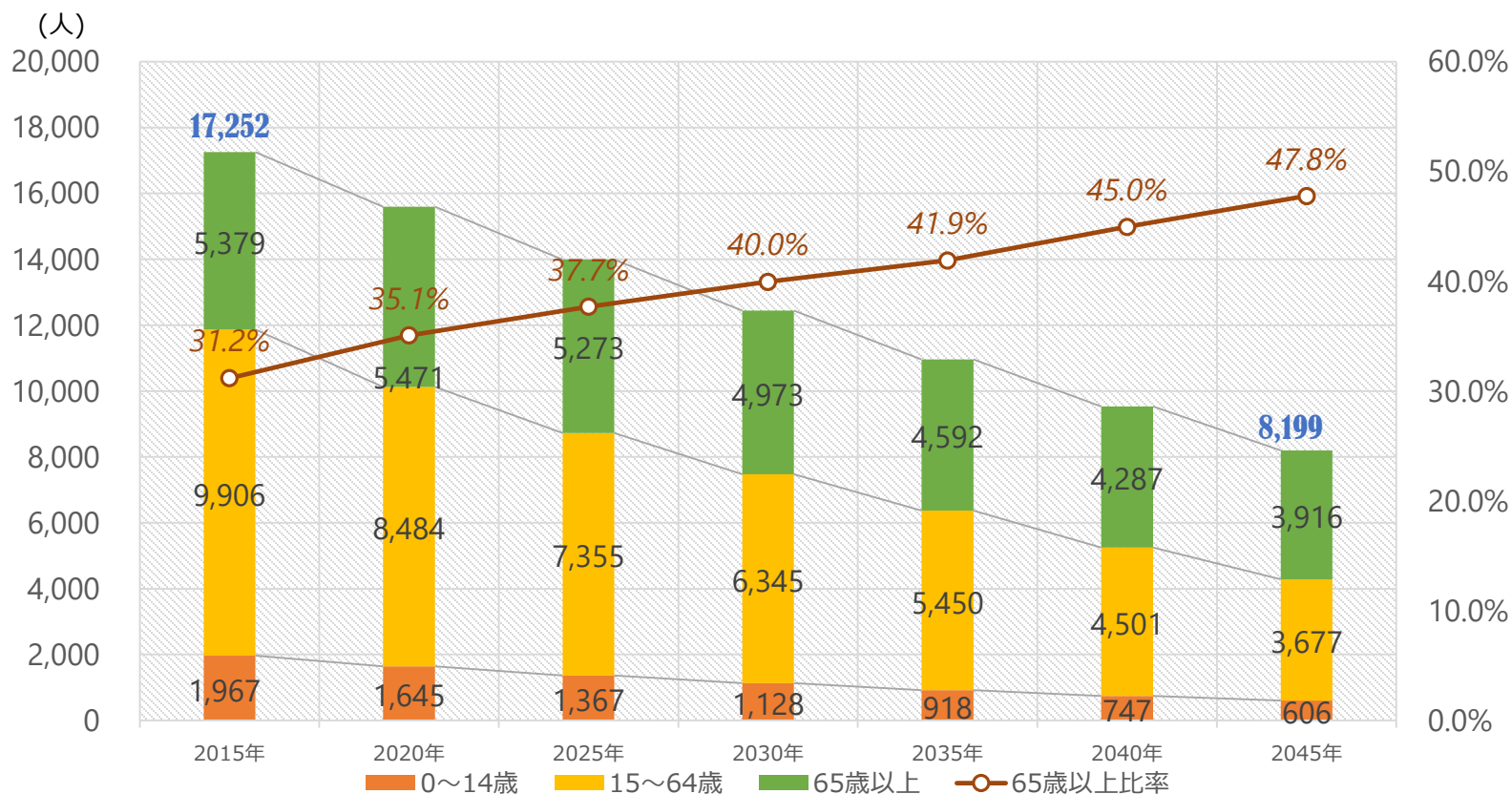
⑨ 検討のスケジュール



2. 八雲町の公共交通の現況について

① 地域の現状：人口関連（人口構造）

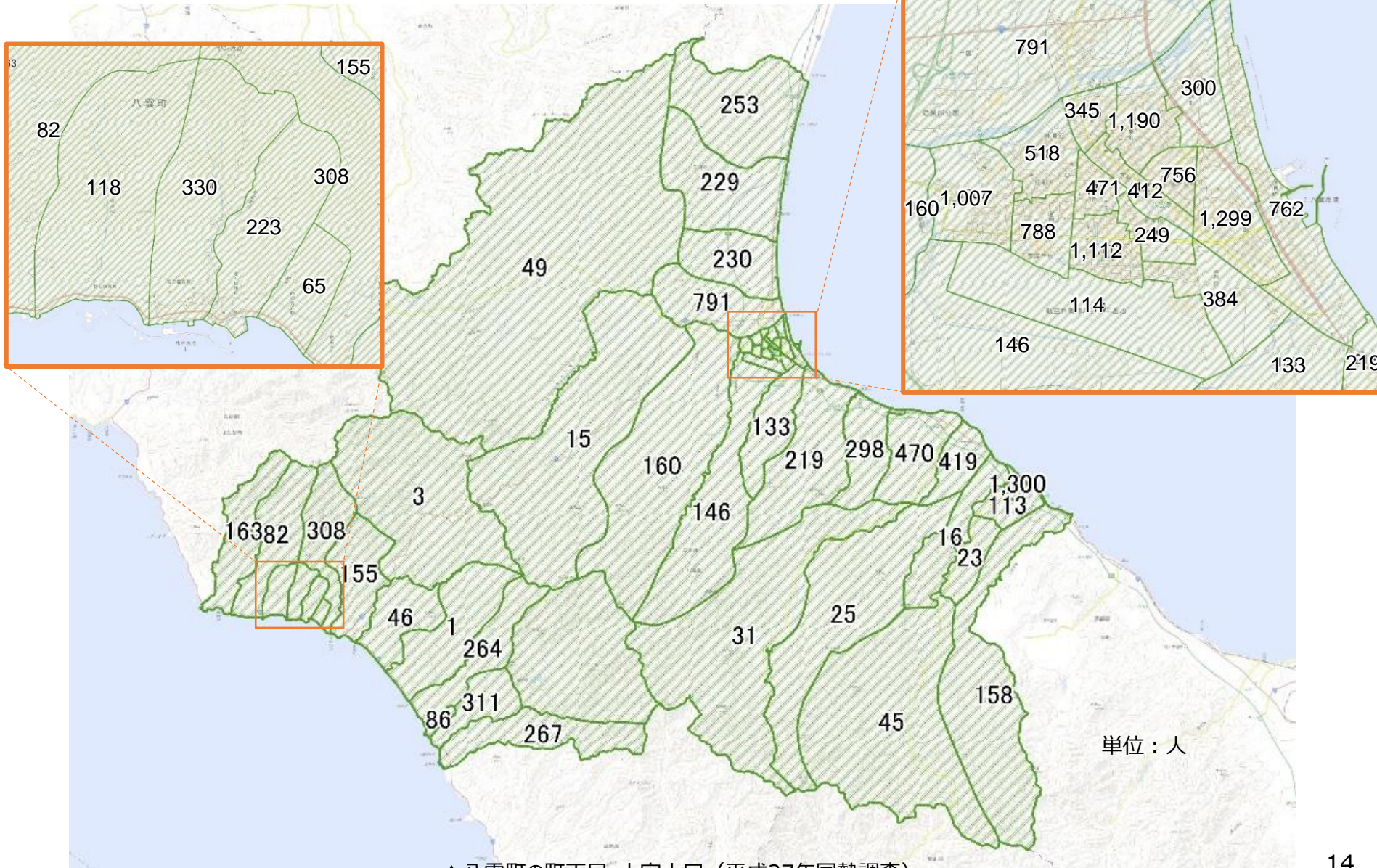
- 2015年国勢調査時の人口は17,252 人であり、ピーク時の35,160 人（1955年）の半数以下まで減少している。
- 2045年には現状の約5割の8,199人と推計されており、高齢化においては、町民の約5割が65歳以上の高齢者になると推計されている。



▲八雲町の年代別将来人口

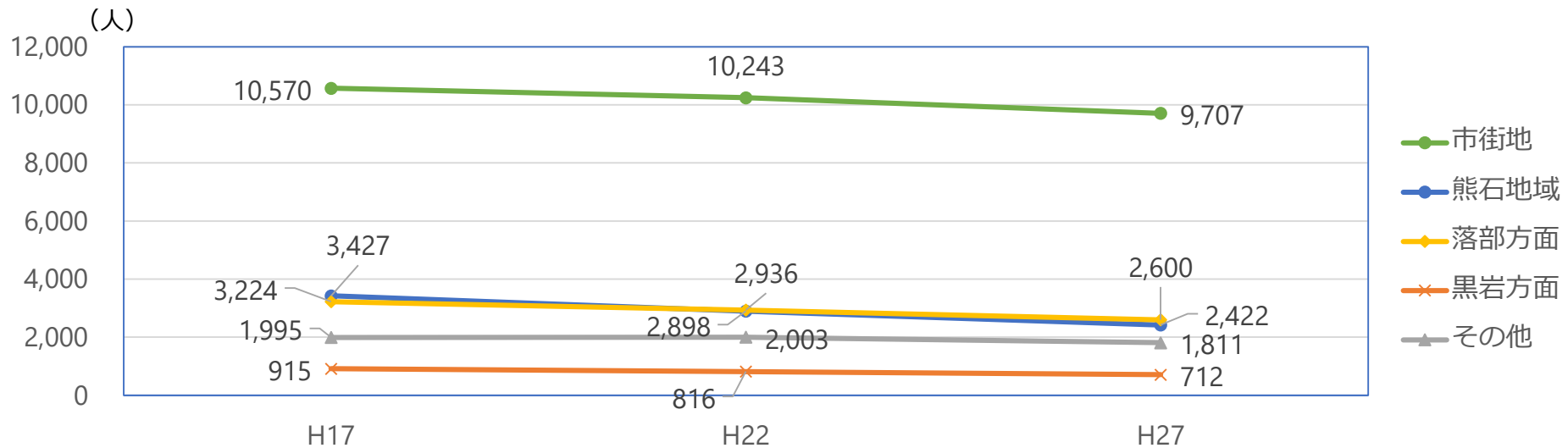
2. 八雲町の公共交通の現況について

① 地域の現状：人口関連（人口構造）

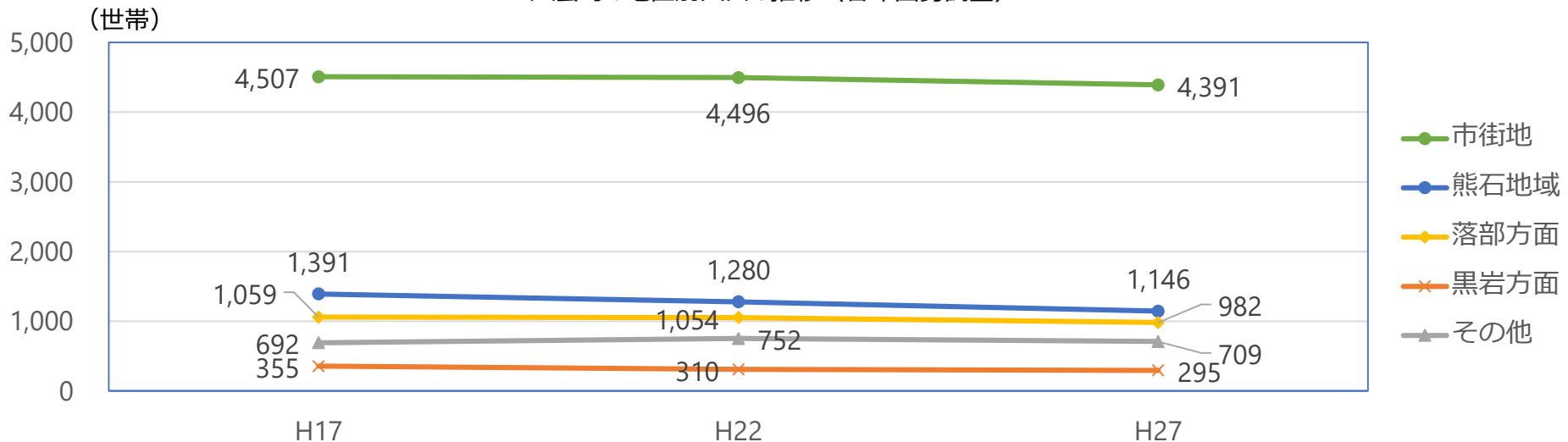


2. 八雲町の公共交通の現況について

① 地域の現状：人口関連（人口・世帯数の推移）



▲八雲町の地区別人口の推移（各年国勢調査）

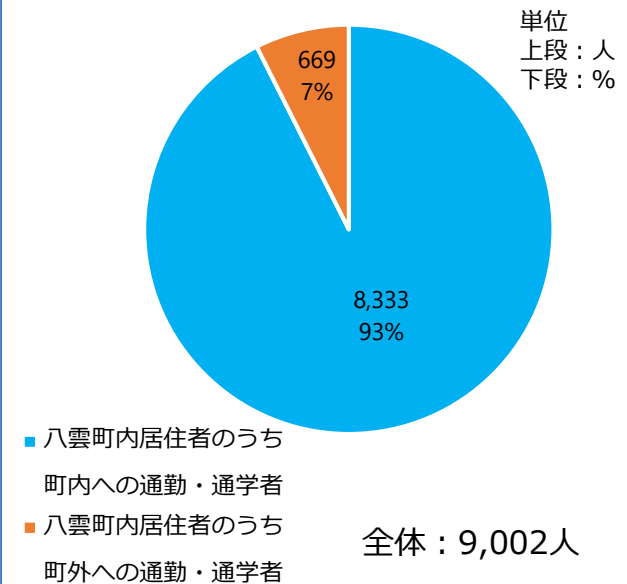
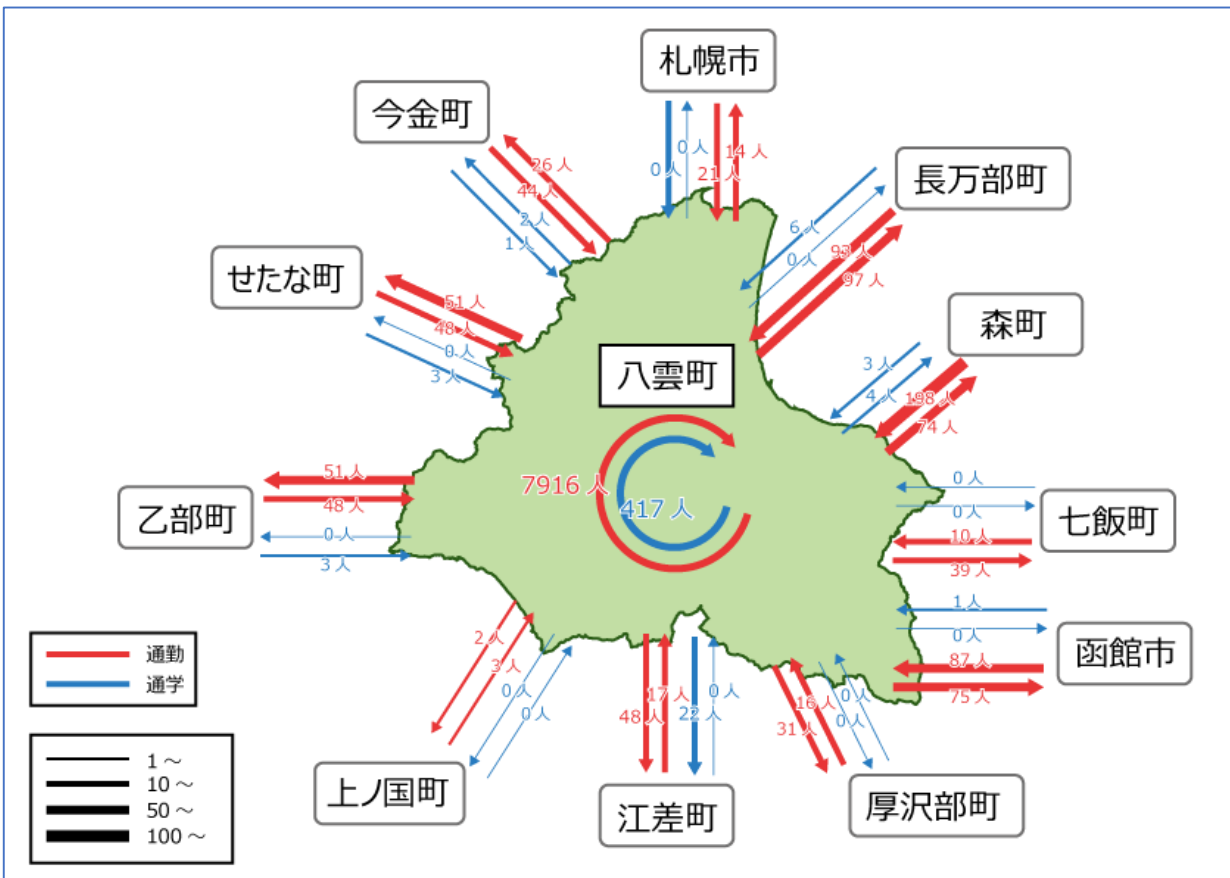


▲八雲町の地区別世帯数の推移（各年国勢調査）

2. 八雲町の公共交通の現況について

② 地域の現状：流動関連（通勤・通学）

- 2015年国勢調査時の通勤・通学流動では、93%の町民が町内で従業・通学している。
- 町外への通勤では、長万部町が1.1%と最も多く、通学では江差町の4.4%が最も多くなっている。



▲八雲町に関連する通勤・通学流動（平成27年国勢調査）

▲八雲町居住者（15歳以上）の通勤・通学流動（平成27年国勢調査）

2. 八雲町の公共交通の現況について

② 地域の現状：流動関連（通勤・通学）

▼八雲町に関連する通勤流動（平成27年国勢調査）

15歳以上就業者	常住地による 従業市区町村			従業地による 常住市区町村			
	H17	H22	H27	H17	H22	H27	
当地に常住する就業者	9,884	9,070	8,571	9,975	9,112	8,686	
自市町村で従業	9,245	8,396	7,916	9,245	8,396	7,916	
他市区町村で従業	639	639	593	730	650	703	
道内	608	598	527	724	649	696	
他県	31	10	61	6	1	7	
道内 内訳	札幌市	17	4	14	32	14	21
	函館市	44	36	41	58	75	87
	七飯町	10	10	10	34	34	39
	森町	98	115	74	200	188	198
	長万部町	105	101	97	110	96	93
	江差町	73	70	48	32	20	17
	上ノ国町	11	5	2	13	8	3
	厚沢部町	42	55	31	14	6	16
	乙部町	65	57	51	47	36	48
	今金町	23	33	26	42	47	44
	せたな町	52	45	37	63	65	61
	その他の市町村	68	67	96	79	60	69

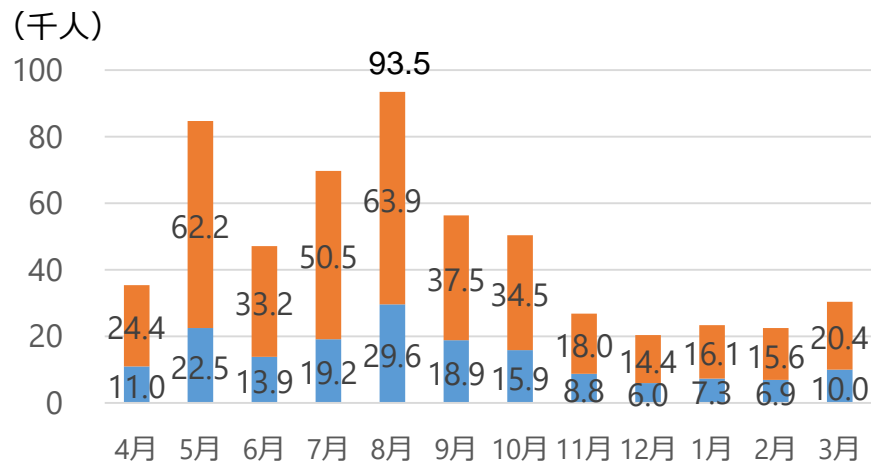
▼八雲町に関連する通学流動（平成27年国勢調査）

15歳以上通学者	常住地による 通学市区町村			通学地による 常住市区町村			
	H17	H22	H27	H17	H22	H27	
当地に常住する通学者	694	587	495	644	567	437	
自市町村で通学	609	536	417	609	536	417	
他市区町村で通学	85	48	76	35	22	17	
道内	79	42	69	34	22	17	
他県	6	0	6	1	0	0	
道内 内訳	札幌市	22	3	12	0	1	0
	函館市	23	7	19	0	0	1
	七飯町	0	0	0	0	0	0
	森町	15	8	4	0	3	3
	長万部町	2	1	0	4	2	6
	江差町	8	20	22	0	0	0
	上ノ国町	0	0	0	0	0	0
	厚沢部町	0	0	0	0	1	0
	乙部町	0	0	0	21	8	3
	今金町	0	0	2	0	0	1
	せたな町	0	0	0	5	6	2
	その他の市町村	9	3	10	4	1	1

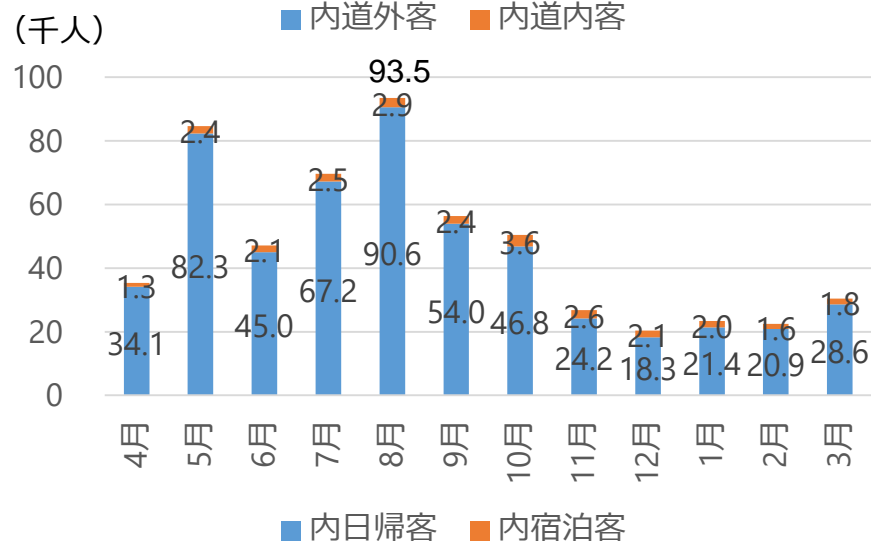
2. 八雲町の公共交通の現況について

③ 地域の現状：主要施設（観光）

- 町内に訪れる観光客のピークは夏場の8月に見られ、93,500人が訪れている。
- そのうち、大半の観光客が日帰り観光となっている。



▲町内の主な観光資源

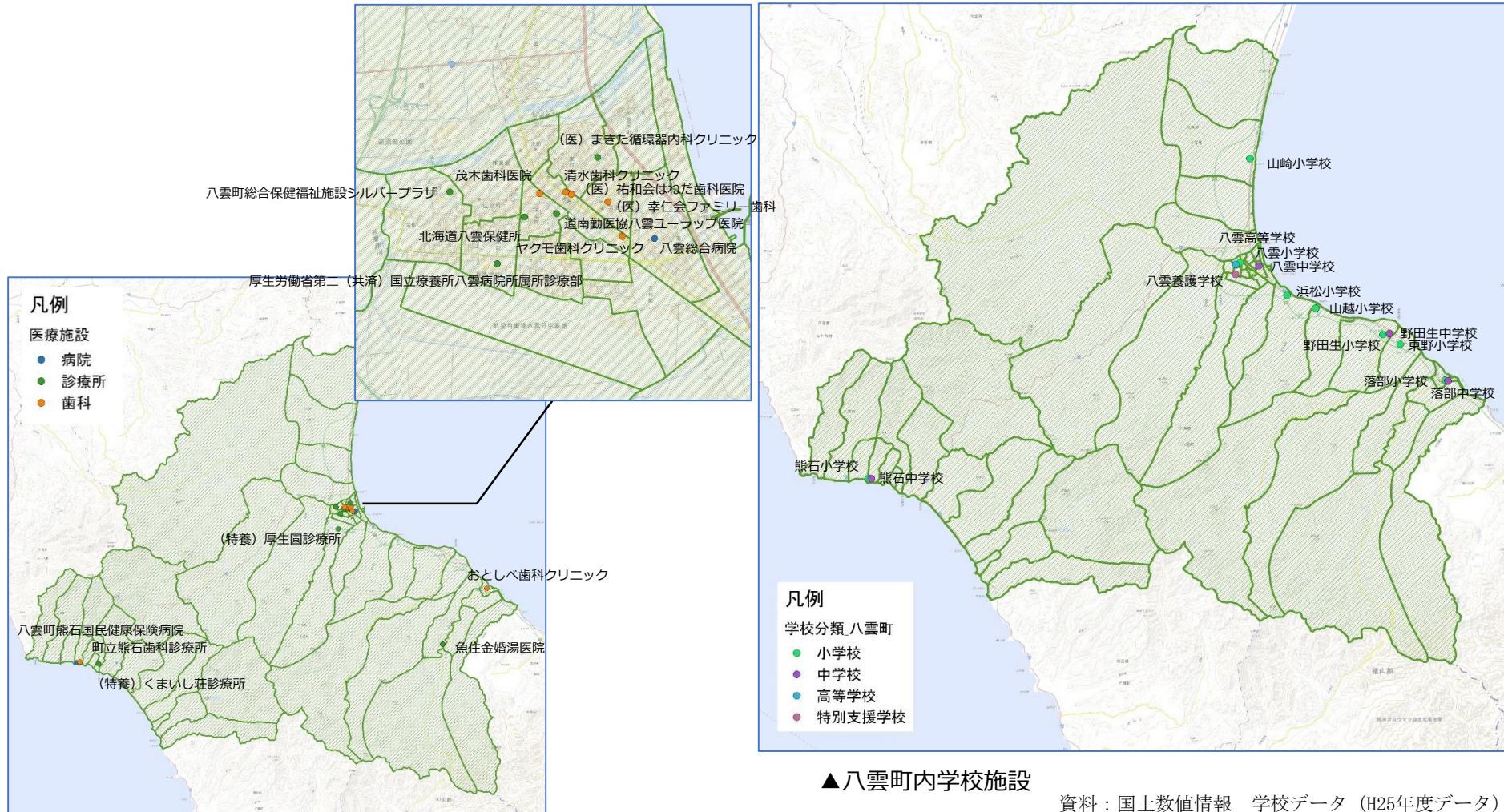


▲H29年度月別観光入込客数（北海道観光入込客数調査）

2. 八雲町の公共交通の現況について

③ 地域の現状：主要施設（医療施設・教育施設）

- 町内の医療施設・教育施設においては、八雲市街地周辺部をはじめ沿岸の主要箇所



▲八雲町内医療施設 資料：国土数値情報 医療機関データ (H26年度データ)

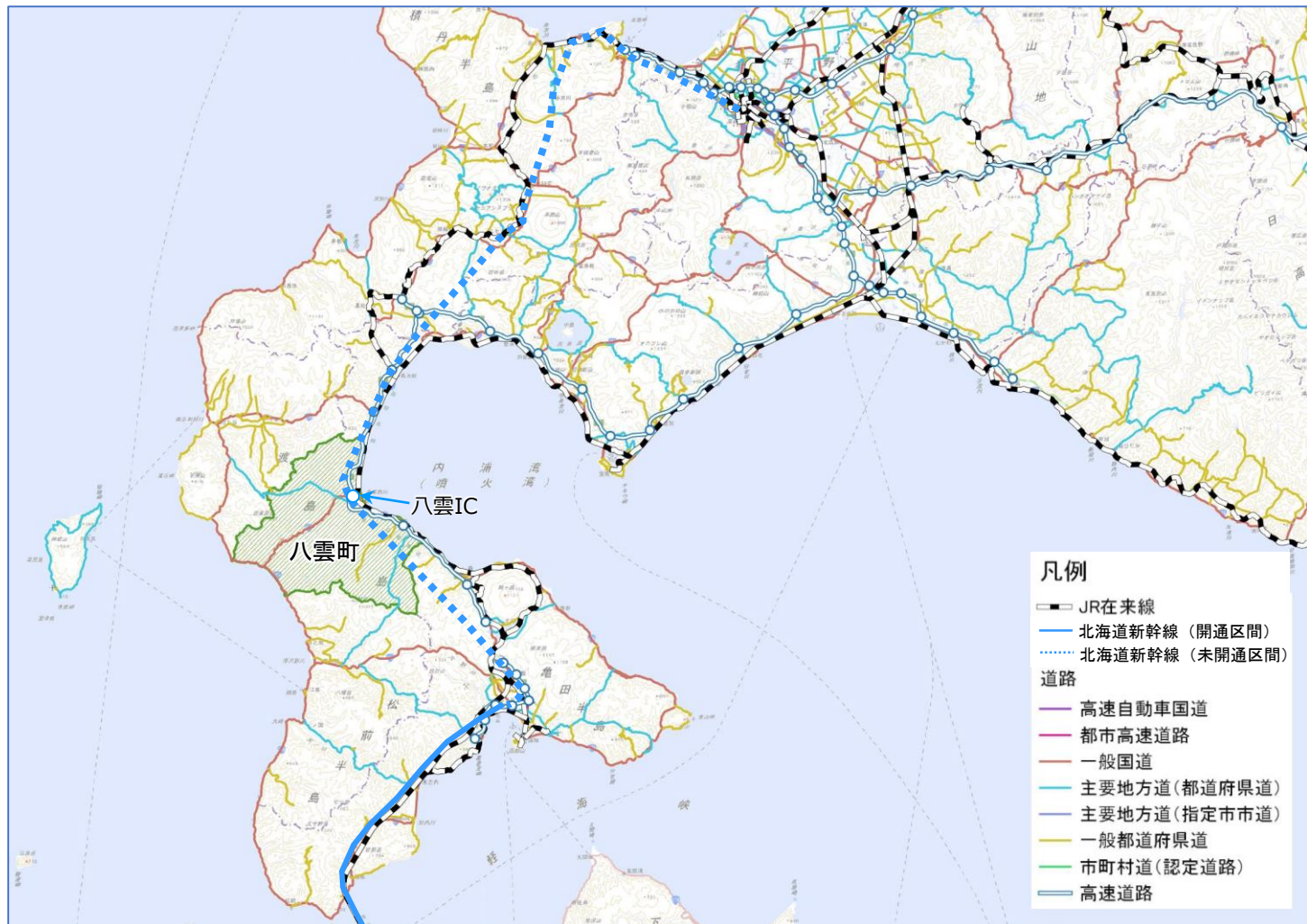
▲八雲町内学校施設

資料：国土数値情報 学校データ (H25年度データ)

2. 八雲町の公共交通の現況について

④ 地域の現状：広域交通ネットワーク

- 八雲町市街地部は鉄道の函館本線八雲駅、道路は国道5号、国道277号、平成18年に北海道縦貫自動車道八雲ICも開通し、交通の要衝となっている。



▲八雲町周辺広域交通ネットワーク

2. 八雲町の公共交通の現況について

④ 地域の現状：広域交通ネットワーク

- 町内にあるJR駅6駅のうち、主たる利用は八雲駅に集中しており、2017年の駅乗降客数は456人/日となっている。
- 2011年の538人/日から減少傾向が続いている。

▼八雲町内JR駅の一日平均乗降客数

単位：人/日

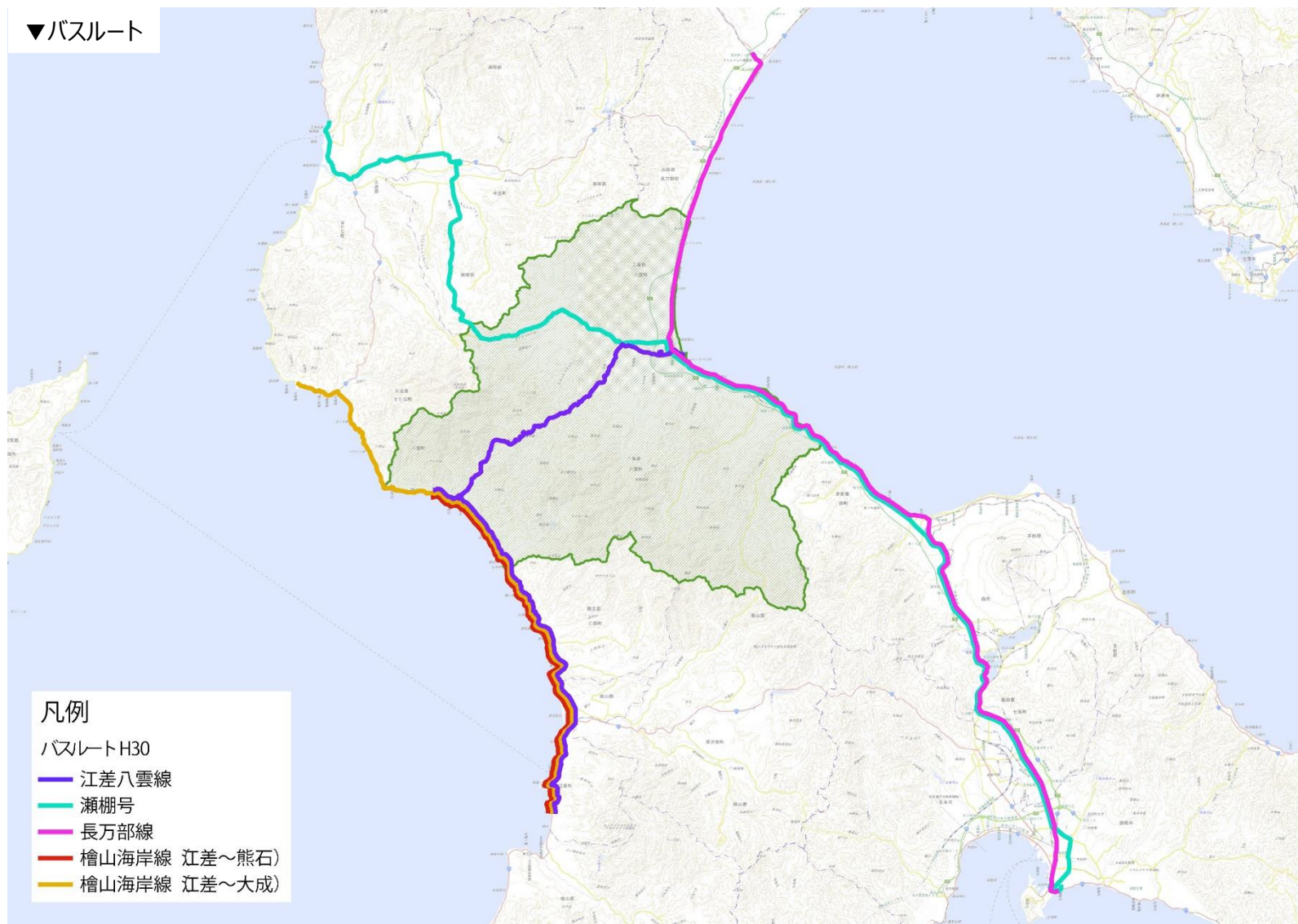
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
黒岩	6	4	6	4	不明	不明	不明
山崎	2	6	4	4	不明	不明	不明
八雲	538	540	500	486	492	442	456
山越	8	10	8	10	不明	不明	不明
野田生	46	54	60	52	不明	不明	不明
落部	70	62	60	56	62	不明	不明

資料：国土数値情報 駅別乗降客数データ
不明はデータが公表されていないもの

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑤ 地域の現状：地域公共交通（ルート）

- 町内には函館バス1社・5路線のバスルートがある



2. 八雲町の公共交通の現況について

⑤ 地域の現状：地域公共交通（運行本数）

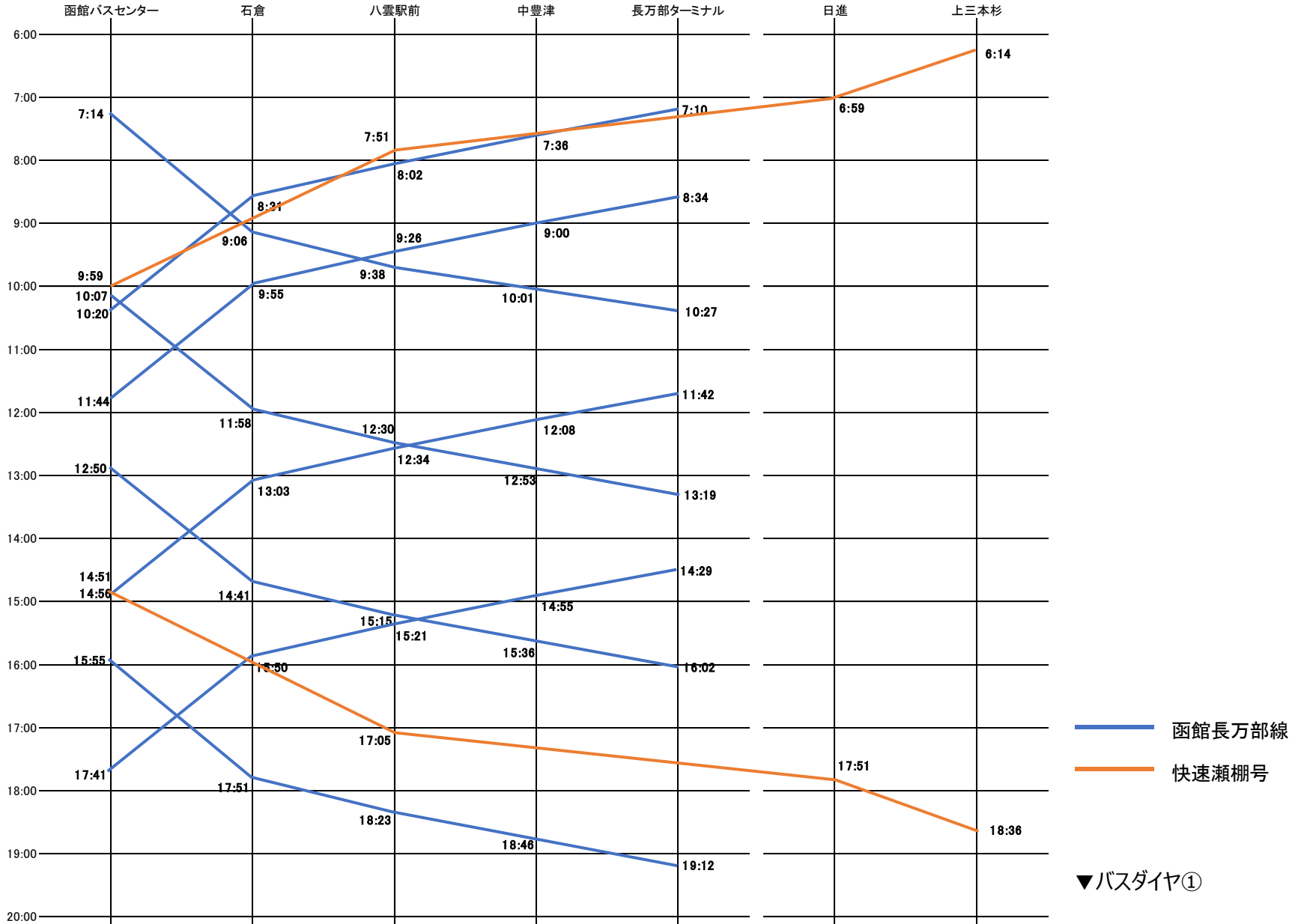
- 八雲町市街地周辺においては、バスは1日3往復程度が運行されている。

▼八雲町市街地周辺の1日のバス運行本数

系統	一日の本数（単位は往復） ※は新駅予定地前の道道を通過												合計	
	函館・長万部		森出張所・長万部		江差・八雲※				瀬棚号※					
行先	長万部ターミナル		函館バスセンター		江差ターミナル		八雲駅前・八雲総合病院		上三本杉		函館バスセンター		平日	土日祝
曜日	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝		
八雲役場前					2	2	2	2					4	4
八雲高校					2	2	2	2					4	4
シルバープラザ					2	2	2	2					4	4
花浦	4	4	4	4									8	8
鷺の巣信号所前	4	4	4	4									8	8
立岩入口	4	4	4	4									8	8
八雲元町	4	4	4	4									8	8
八雲本町	4	4	4	4									8	8
八雲駅前	4	4	4	4	2	2	2	2	1	1	1	1	14	14
八雲駅総合病院入口	4	4	4	4	2	2	2	2	1	1	1	1	14	14
八雲総合病院	4	4	4	4	2	2							10	10
八雲開発建設部	4	4	4	4									8	8
自動車学校前	4	4	4	4									8	8
浜松	4	4	4	4									8	8
浜松温泉	4	4	4	4									8	8
山越駅前	4	4	4	4									8	8
中央山越	4	4	4	4									8	8
由追	4	4	4	4									8	8
由追二区	4	4	4	4									8	8
沼尻	4	4	4	4									8	8
野田生駅前	4	4	4	4									8	8

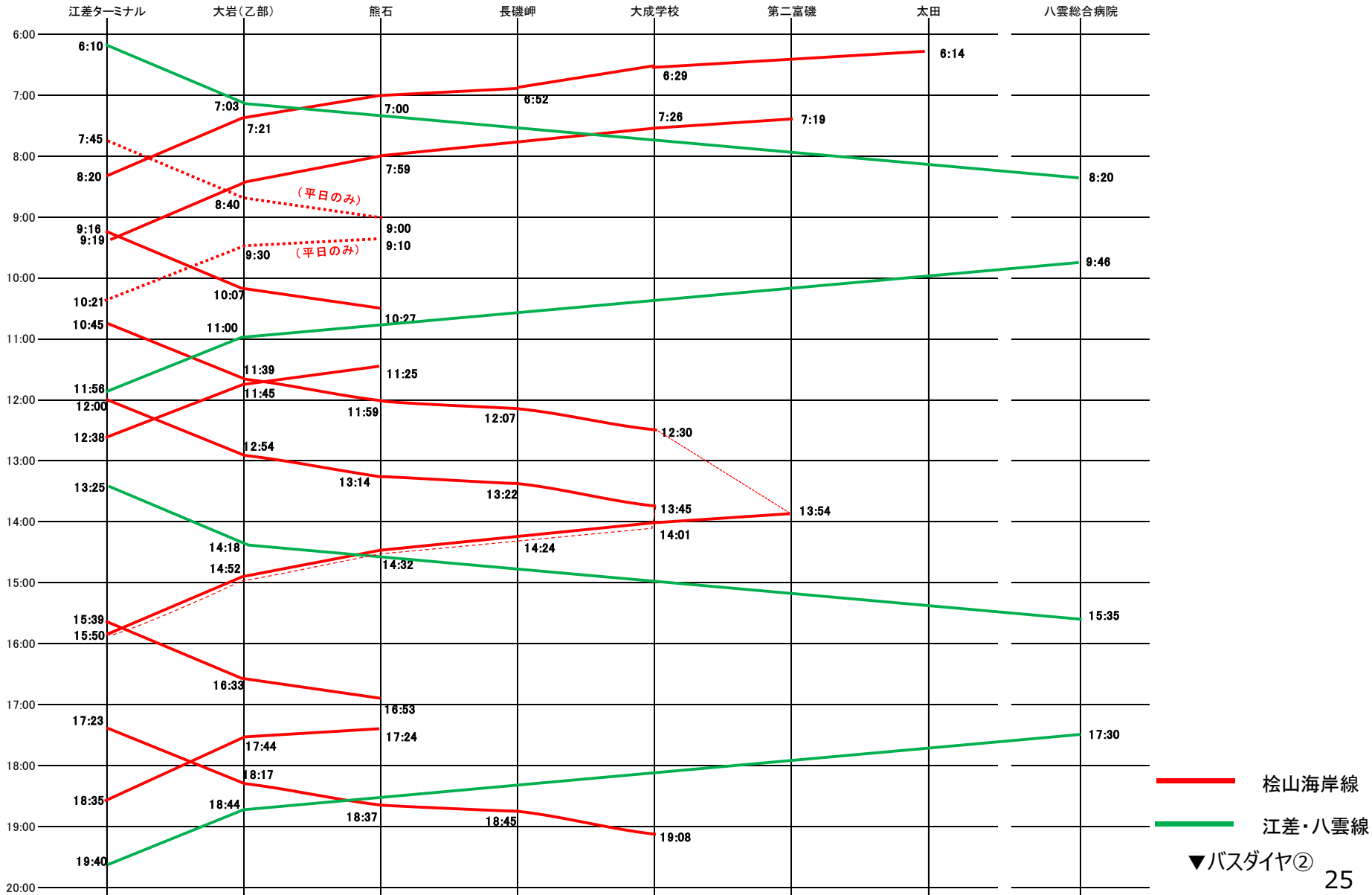
2. 八雲町の公共交通の現況について

⑤ 地域の現状：地域公共交通（ダイヤ）



2. 八雲町の公共交通の現況について

⑤ 地域の現状：地域公共交通（ダイヤ）

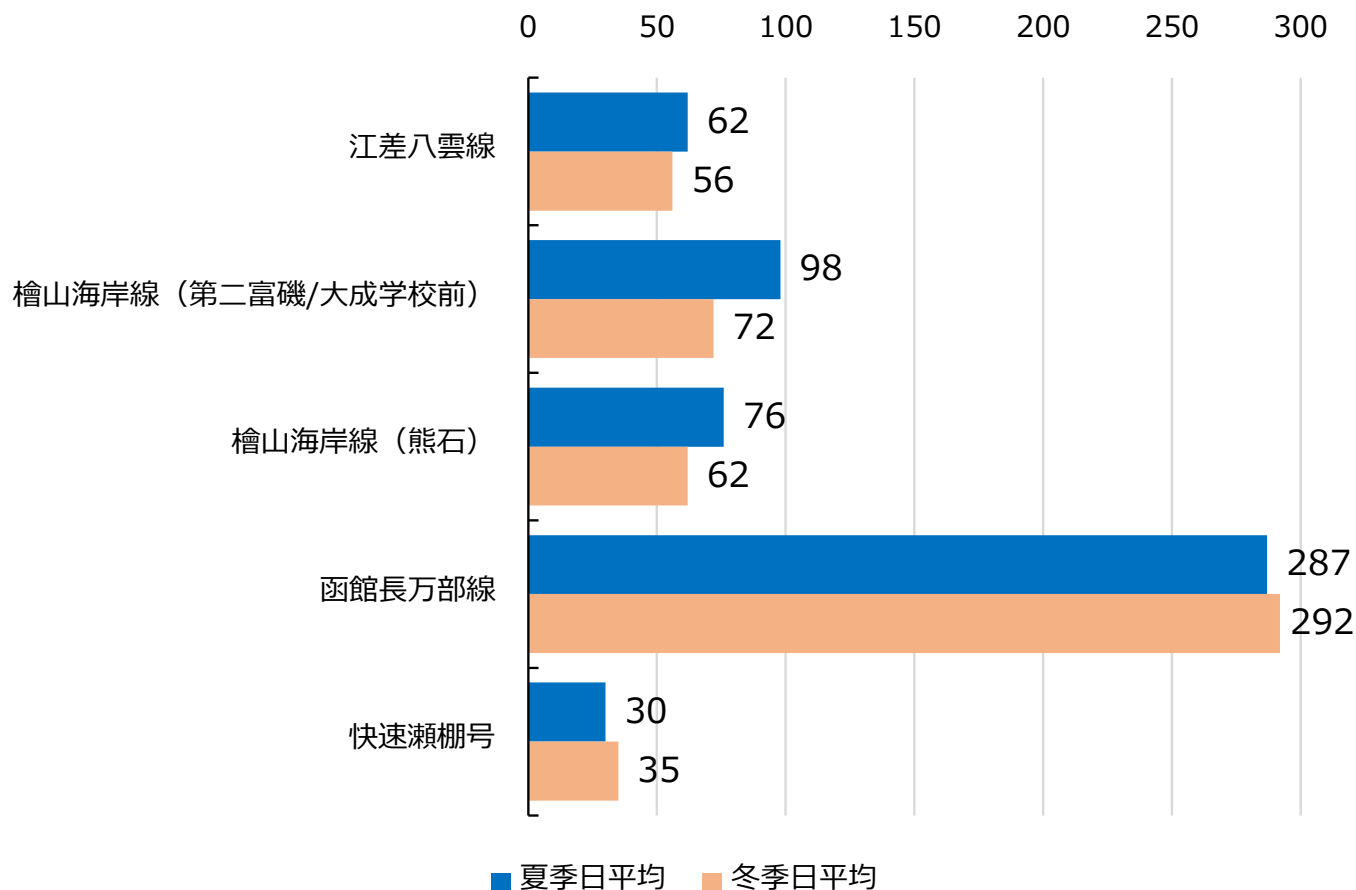


2. 八雲町の公共交通の現況について

⑥ 地域の現状：路線バスの1日の平均利用者数（町関連）

- 利用者数は、夏季（6月）と冬季（2月）で大きな差はない。

町内路線バスの季節別1日平均利用者数



2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数(平成30年6月4日～10日)

- 江差八雲線
 - 町内での乗車では八雲駅前から乗車する人が最も多く30人
 - 八雲駅から乗車した人の大半（23人）が町外で降車
 - 町内での降車では八雲高校に降車する人が最も多く25人
 - 八雲高校に降車する人の大半（19人）が熊石から乗車

- 瀬棚号
 - 町内での乗車では八雲駅前から乗車する人が最も多く16人
 - 八雲駅から乗車した人は全員町外で降車
 - 町内での降車では八雲病院入口と八雲駅前が同数の6人
 - 降車する人は全員町外から乗車

- 長万部線
 - 町内での乗車では八雲駅前から乗車する人が最も多く59人
 - 八雲町での降車は黒岩（八雲）、南浜が5人、浜松温泉が7人
 - 町内での降車では八雲総合病院が最も多く31人
 - 町内からの乗車で多いのは黒岩（八雲）5人

- 檜山海岸線
(江差～熊石)
 - 町内での乗車では門昌庵、泊川、相沼、折戸から乗車する人が各1名
 - 町内での降車では折戸で降車する人が最も多く10人
 - 折戸で降車する乗車は町外から乗車

- 檜山海岸線
(江差～大成)
 - 町内での乗車では折戸から乗車する人が最も多く27人
 - 折戸から乗車した人は全員町外で降車
 - 町内での降車では折戸で降車する人が最も多く31人
 - 町内からの乗車は館平漁業組合からの乗車1人のみ

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数（江差八雲線）

▼江差八雲線バス乗降OD表（平成30年6月4日～10日）

		降車バス停										
		八雲駅前	八雲高校	熊石	門昌庵	鮎川	泊川	相沼	折戸	八雲町外 (江差方面)	総計	
乗車バス停	八雲総合病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	八雲駅前	—	0	4	0	1	0	2	0	23	30	
	八雲高校	0	—	6	0	0	0	0	0	0	6	
	熊石	0	19	—	0	0	0	0	0	0	19	
	門昌庵	0	1	0	—	0	1	0	0	0	2	
	鮎川	1	0	0	0	—	0	0	0	0	1	
	泊川	0	0	0	0	0	—	0	0	1	1	
	相沼	0	5	0	0	0	0	—	0	0	5	
	八雲町外 (江差方面)	19	0	0	1	0	0	0	1	0	21	
	不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	総計	22	25	10	1	1	1	2	1	25	88	

※ICカード利用者の乗降者バス停データの集計（函館バス株式会社提供）

※上記表はあるバス停から乗車（乗車バス停）し、あるバス停で降車（降車バス停）した人数を示したものの。

乗車バス停からの乗車合計人数は最右列、降車バス停からの降車合計人数は最下行。

見方（例）八雲総合病院から乗車し、八雲駅前で降車した人数は0人

八雲駅前で乗車し、熊石で降車した人数は4人、八雲駅前から乗車した人数の合計は30人

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数（瀬棚号）

▼瀬棚号バス乗降OD表（平成30年6月4日～10日）

		降車バス停				総計
		八雲町外 (函館方面)	八雲病院入口	八雲駅前	八雲町外 (せたな方面)	
乗車 バス停	八雲町外 (函館方面)	0	0	3	0	3
	八雲病院入口	1	—	0	0	1
	八雲駅前	5	0	—	11	16
	八雲町外 (せたな方面)	0	6	3	0	9
	総計	6	6	6	11	29

※ICカード利用者の乗降者バス停データの集計（函館バス株式会社提供）

※上記表はあるバス停から乗車（乗車バス停）し、あるバス停で降車（降車バス停）した人数を示したものの。

乗車バス停からの乗車合計人数は最右列、降車バス停からの降車合計人数は最下行。

見方（例）八雲病院入口から乗車し、八雲町外（函館方面）で降車した人数は1人

八雲駅前乗車し、八雲町外（函館方面）で降車した人数は5人、八雲駅前から乗車した人数の合計は16人

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数（長万部線）

▼長万部線バス乗降OD表（平成30年6月4日～10日）

※ICカード利用者の乗降者バス停データの集計（函館バス株式会社提供）

※表はあるバス停から乗車（乗車バス停）し、あるバス停で降車（降車バス停）した人数を示したものの見方（例）黒岩駅前で乗車し、八雲本町で降車した人数は4人

	降車バス停																			総計
	八雲町外 (長万部 方面)	黒岩 (八雲)	黒岩駅 前	沓り川	山崎駅 前	南浜	八雲本 町	八雲駅 前	八雲病 院入口	八雲総 合病院	八雲開 発建設	自動車 学校前	浜松温 泉	由追	野田生 駅前	東野	落部駅 前	栄浜	八雲町外 (函館方 面)	
八雲町外 (長万部方 面)	0	0	0	0	0	0	10	8	0	20	5	0	0	0	0	0	0	0	0	43
黒岩 (八雲)	0	-	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
黒岩駅前	0	0	-	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
山崎駅前	0	0	0	0	-	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
南浜	0	0	0	0	0	-	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
八雲駅前	18	5	2	4	3	5	0	-	0	0	1	0	7	0	2	2	2	1	7	59
八雲病院入 口	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4
八雲総合病 院	15	1	0	1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	2	1	0	20
八雲開発建 設	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	3	0	0	8
自動車 学校前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	3	0	0	0	0	1	4
浜松温泉	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	-	1	0	0	0	0	0	8
由追	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7	-	0	0	1	0	1	12
野田生 駅前	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	2	0	0	0	-	0	0	1	0	8
東野	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	-	0	0	1	3
落部駅前	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	1	0	0	-	0	0	7
栄浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	-	0	3
八雲町外 (函館方 面)	0	0	0	0	0	0	0	7	2	2	2	1	0	1	0	1	3	0	0	19
不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	38	6	2	5	3	5	23	27	6	31	14	2	14	6	4	5	12	3	11	217

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数（檜山海岸線（江差～熊石））

▼檜山海岸線（江差～熊石）バス乗降OD表（平成30年6月4日～10日）

		降車バス停								
		熊石	門昌庵	泊川	総合センター前	館平漁業組合	相沼	折戸	八雲町外 (江差方面)	総計
乗車 バス停	門昌庵	0	-	0	0	0	0	0	1	1
	泊川	0	1	-	0	0	0	0	0	1
	相沼	0	0	0	0	0	-	0	1	1
	折戸	0	0	0	1	0	0	-	0	1
	八雲町外 (江差方面)	5	0	1	0	3	1	10	0	20
	総計	5	1	1	1	3	1	10	2	24

※ICカード利用者の乗降者バス停データの集計（函館バス株式会社提供）

※上記表はあるバス停から乗車（乗車バス停）し、あるバス停で降車（降車バス停）した人数を示したものの。

乗車バス停からの乗車合計人数は最右列、降車バス停からの降車合計人数は最下行。

見方（例）泊川から乗車し、門昌庵で降車した人数は1人

八雲町外（江差方面）で乗車し、熊石で降車した人数は5人、八雲町外（江差方面）から乗車した人数の合計は20人

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑦ 地域の現状：バス停別乗降客数（檜山海岸線（江差～熊石））

▼檜山海岸線（江差～大成）バス乗降OD表（平成30年6月4日～10日）

		降車バス停							総計
		東関内	熊石	泊川	館平漁業組合	相沼	折戸	八雲町外 （江差方面）	
乗車 バス停	東関内	—	0	0	0	0	0	5	5
	熊石	0	—	0	0	0	0	20	20
	浜中	0	0	0	0	0	0	3	3
	泊川	0	0	—	0	0	0	12	12
	館平漁業組合	0	0	0	—	0	1	1	2
	相沼	0	0	0	0	—	0	10	10
	折戸	0	0	0	0	0	—	27	27
	八雲町外 （江差方面）	4	11	9	1	2	20	0	47
	総計	4	11	9	1	2	21	78	126

※ICカード利用者の乗降者バス停データの集計（函館バス株式会社提供）

※上記表はあるバス停から乗車（乗車バス停）し、あるバス停で降車（降車バス停）した人数を示したものの。

乗車バス停からの乗車合計人数は最右列、降車バス停からの降車合計人数は最下行。

見方（例）八雲町外（江差方面）で乗車し、熊石で降車した人数は11人、八雲町外（江差方面）から乗車した人数の合計は47人

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑧ 地域の現状：路線バスの年間利用者数（全区間）

路線名	系統番号	起終点	年間利用者数 (人)
江差八雲線	623	江差ターミナル～八雲駅前・八雲総合病院	13,212
檜山海岸線	731・733	江差ターミナル～第二富磯・大成学校前	68,992
檜山海岸線	624	江差ターミナル～熊石	63,004
函館長万部線	310	函館バスセンター～長万部ターミナル	138,552
快速瀬棚号	710	上三本杉～函館バスセンター	13,091

※出典：函館バス株式会社

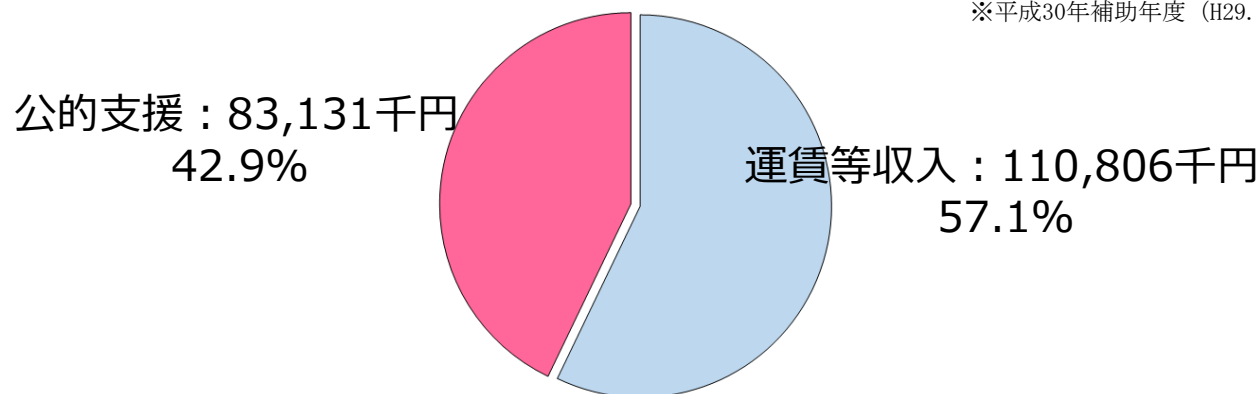
※快速瀬棚号は平成30年会計年度、そのほかの路線は平成30年補助年度

2. 八雲町の公共交通の現況について

⑨ 地域の現状：赤字バス路線への支援（平成30年補助年度）

路線名	利用者数 (人)	収入－経費 (円)	運行助成金（円） (うち八雲町)	運行補助金（円） (うち八雲町)	公的支援（円） (うち八雲町)
江差八雲線	13,212	-16,997,149	4,502,601 (1,799,000)	12,494,548 (2,498,000)	16,997,149 (4,297,000)
檜山海岸線 (江差-大成)	68,992	-13,274,773	－	13,274,773 (287,000)	13,274,773 (287,000)
檜山海岸線 (江差-熊石)	63,004	-6,483,470	－	6,483,470 (192,000)	6,483,470 (192,000)
函館長万部線	138,552	-46,375,909	－	46,375,909 (358,000)	46,375,909 (358,000)
合 計		-83,131,301	4,502,601 (1,799,000)	78,628,700 (3,335,000)	83,131,301 (5,134,000)

※平成30年補助年度（H29. 10. 1～H30. 9. 30）



▲運行経費に占める運賃収入と公的支援の割合

3. 町民アンケート調査について

① 実施方法

- 地区別の町民移動実態、公共交通利用実態、移動に関する意向や問題意識の把握
- 町民の実態とニーズを反映した公共交通の課題抽出、計画・施策検討の基礎資料

項目	内容	備考
対象	町内在住 満16歳以上の町民	※対象を世帯とすると、世帯主及び高齢者の回答率が高くなるため、 対象を個人 とする
抽出方法	住民基本台帳から 無作為抽出	※ 人口が少ない地区 は、抽出率をアップして 配布数を確保
対象者数	抽出配布数4,300人	※1,290票の想定回収数は、 統計上の信頼度 95%で必要なサンプル数が確保 されるもの
回収目標	回収目標1,290人 想定回収率30%	
方法	郵送配布 郵送回収	
実施時期	発送：7月下旬 締切：8月上旬	※ 回答期間：約2週間

3. 町民アンケート調査について

② 調査内容（調査票は別添資料を参照）

項目	内容
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none">○性別、年齢、家族構成、職業、住まい、車を利用できる環境○日常的な自動車運転の有無及び運転を希望する年齢の上限○鉄道駅・バス停の認知及び所要徒歩時間
日常生活の移動	<ul style="list-style-type: none">○通勤・通学、通院、買い物の外出先、交通手段、外出頻度
公共交通の利用状況	<ul style="list-style-type: none">○利用頻度、利用しない場合は利用基礎知識の認知度
公共交通の必要度・サービスの重要性	<ul style="list-style-type: none">○自身の必要度とその理由○地域や次世代にとっての必要度とその理由○利用する上での運行、運賃、情報、アクセス、駅・バス停、利用しやすさの各サービスの重要性
公共交通の今後の確保について	<ul style="list-style-type: none">○公共交通サービスの確保、維持における費用等の負担に対する考え方○ハイヤーを活用した地域交通確保策に対する賛否
その他	<ul style="list-style-type: none">○自由意見○意見交換会開催の告知と開催・出席に興味がある町民の募集

4. 路線バス利用実態調査について

① 実施方法

- バス利用実態（利用者数、利用区間）の把握

把握項目	把握方法
<ul style="list-style-type: none">○路線別総利用者数○町内バス停別の乗降者人数○町内バス停乗降車の利用区間 (バス停間OD)	<ul style="list-style-type: none">■ 函館バス株式会社が保有する交通系ICカード利用データの分析■ 函館バス株式会社の運行系統別輸送実績報告書（国への報告書）⇒運行経費、運賃収入も把握
<ul style="list-style-type: none">○町内バス停乗降者特性<ul style="list-style-type: none">・性別、年齢、利用目的、利用頻度○利用環境やサービスに対する意識・意向<ul style="list-style-type: none">・現在の満足度、改善の重要度・改善案等に対する意向	<ul style="list-style-type: none">■ 利用者アンケート調査（各路線1往復）<ul style="list-style-type: none">・調査員が乗車し、調査票を直接配布、郵送回収・バスに同乗した調査員が調査票配布とともに、バス停別乗降人数を計測し、交通系ICカード利用データの補完に活用